

エックス線装置概要

1 エックス線装置の概要			
台	数	台	
製 作 者	名		
型	式		
製 造 年	月	年	月
装 置 の 種 類		固定式 (移動不能) ・ 可搬型 (移動可能) ・ ポータブル	
高電圧発生装置の定格出力	区 分	管電圧	管電流 撮影時間
	長 時 間	kV	mA ー
	短 時 間	kV	mA 秒
	コ ン デ ン サ 式	kV	μF ー
用 途		撮影 ・ 透視 ・ 治療 <input type="checkbox"/> 口内法 (撮影式の場合で口内法であればチェック)	
設 置 時 の 状 態		新 品 ・ 中 古 品	
設 置 年 月 日		年 月 日	
2 エックス線装置の放射線障害防止に関する構造設備の概要			
(1) エックス線装置の共通事項			
照 射 筒	有 ・ 無		
照 射 野 を 絞 る 装 置	有 ・ 無		
線管容器、照射筒及び絞りの漏れ放射線量	線管の焦点から1mの距離 接触可能表面から5cmの距離	mGy/時間 以下 mGy/時間 以下	
総 ろ 過 量	mmアルミニウム当量以下		
(2) 透視用エックス線装置			
透視用画像モニターの種類	蛍光板・テレビモニター・その他 ()		
警告音付きタイマー	有 ・ 無		
利用線すい可動絞り装置	有 ・ 無		
受像器の接触可能表面の放射線量	受像器の接触表面から10cmの距離	μGy/時間 以下	
透過時の最大受像面の3cmを通過した空気カーマ率	受像器の接触表面から10cmの距離	μGy/時間 以下	
利用線すい以外のエックス線を遮へいするための手段			
(3) 撮影用エックス線装置			
口腔内撮影用エックス線装置の場合 照射筒の端におけるエックス線照射野の直径	直径 cm		
移動型、携帯型、手術中に使用するエックス線装置の場合 エックス線管焦点及び被照射体から2m以上離れて操作できる装置	有 ・ 無		
(4) 治療用エックス線装置			
インターロックが作動するろ過板保持装置	有 ・ 無		

3 エックス線診療室の放射線障害防止に関する構造設備の概要				
1週間の延べ撮影回数		回		
1週間の延べ透視時間		時間		
診療施設の構造等		独立家屋（階建）・マンション、アパート等集合家屋（階建 階）・その他（ ） 鉄筋コンクリート・木造又は木造モルタル・プレハブ・その他（ ）		
エックス線診療室の概要	形態	専用室・診療室と兼用・手術室と兼用・その他（ ）		
	操作室の有無	有 ・ 無		
診療室の遮へい物の概要 等（壁を含む） 周囲の遮へい物	区分	材 料	厚 さ	放射線防護に関する措置
	天井			
	床			
	東側			
	西側			
	南側			
	北側			
出入口の扉				
診療室の壁等の外側における最大放射線量		エックス線診療専用の室で使用する場合： $\mu\text{Sv}/1$ 週間 以下 兼用の室で使用する場合： $\mu\text{Sv}/1$ 時間 以下		
標識の有無		有 ・ 無		
注意事項の揭示		有 ・ 無		
4 診療施設における放射線障害の防止に関する予防措置の概要				
管理区域	管理区域の境界における最大放射線量	1 cm線量当量： $\text{mSv}/3$ 月間 以下		
	立入制限措置	遮へい物（材質等： ）による区画・白線での区画・その他（ ）		
	標識の有無	有 ・ 無		
敷地内の住居区域及び敷地の境界	人が居住する区域における最大放射線量	1 cm線量当量： $\mu\text{Sv}/3$ 月間 以下		
	敷地の境界における最大放射線量	1 cm線量当量： $\mu\text{Sv}/3$ 月間 以下		
その他				
5 その他の放射線障害の防止に関する予防措置の概要				
防護用具の保有状況		防護手袋（ 双）、防護エプロン（ 着）、その他（名称： 数量： ）		
エックス線診療従事者等の放射線測定用具等の保有状況		フィルムバッチ（ 個）、熱ルミネセンス線量計（ 個）、ポケット線量計（ 個）、その他（名称： 数量： ）		
エックス線診療等の放射線測定器の保有状況		有 ・ 無 （測定器名： 数量： ）		
その他の措置（健康診断等）				
6 エックス線診療に従事する獣医師の氏名及びエックス線診療に関する経歴				
氏 名		エックス線診療に係る従事年数、エックス線に関する講習会参加状況等		

備考 使用する部屋の見取図及び遮へい物等の配置図を添付すること。